

銀杏の生産と流通 (I)

一 福岡県内の現状 一

九州大学農学部 青木 尊重
 福岡県林業試験場 中島 康博
 福岡県甘木農林事務所 野口 良人

1. はじめに

福岡県で実施した表式調査法による昭和58年度の銀杏の栽培面積は36.5 ha (園地型では成園6.0 ha+未成園13.7 ha=19.7 ha・散在型では成園11.7 ha+未成園5.1 ha=16.8 ha)で、生産量は73.7 ton,栽培農家数は約550戸(そのうち園地型栽培戸数は102戸),販売量は63.8 ton (県内23.5 ton+県外40.3 ton)で生食用主体となっている。採用している主要な品種は、久寿で、主要産地は朝倉郡把木町一帯で、その他では飯塚市などがある。

上記の把木町の一部には、300年生以上といわれている古木が約150本ほど集団的に林立している集落もあり、370名ほどの方々が“研究会”を組織し、銀杏栽培に30年余りの経験をもつI氏を中心に、①品種問題、②栽培技術、③病害虫対策、④流通問題、⑤生産者の組織化等に取組んでいる。

2. 銀杏の出荷規格と品種の特性と市場の傾向

出荷規格については、表-1に示すとおりである。ただし、消費地や消費者層などによって好み異なる。おおむね、新実(当年産)の大粒は高値で、古実(越年もの)の小粒は安値である。出荷者側は、500~1,000gを単位とし、新実は15kgの箱詰と20kgの網袋詰(15kg詰・20kg詰)にしている場合が多い。なお、古木の銀杏は、小玉・長玉が多く、栽培品種の久寿・嶺南などは大玉が多くかつ早生で豊産型で、豊凶の差が少ないという。

品種の特性については、表-2に示すとおりである。福岡県下では、久寿が主として採用されている。

昭和56年度における①大阪市場・②福岡市場における県別入荷量と単価を示すと、表-3・4のとおりであった。すなわち、①大阪市場では九州産が76%を占めており、②福岡大同青果では福岡県産が82%、熊本県産が12%を占めていた。なお、福岡県産の価格は、平均値よりもやや低目である。

出荷者は、①農協渡しと②庭先売りと③青果市場や卸売問屋へ送りつける場合とが主流となっている。

3. 銀杏の栽培体系

銀杏の園地型の栽培体系としては、表-5に示すとおり栽培歴を、一応の規準においている。

なお、成園の施肥設計の規準的なものを示せば、表-6のとおりである。施肥を多くすれば、害虫の被害が多くなるため、ひかえめな施肥がよいといわれている。

栽培者の意向や園地の地形によって、①高接による盃状形仕立てと②低接による変則主幹形仕立てとがある。①は把木町のI氏を中心とする集団で、②は飯塚市のO氏を中心とする集団によって実行されている。両者の得失については、今後の課題である。

4. 病害虫問題

銀杏の栽培上、常時、問題となるものに、各種の害虫に対する防除対策があげられている。現在のところ①ニセビロウドカミキリ、②チャイロヒゲビロウドカミキリ、③ゴマダラカミキリ、④コウモリガ、⑤クスサン等に対する処法箋については、表-7に示すようなことに対応している。

本問題については、先述のI氏の園地の一部を借用して、福岡県林業試験場の大長光らによって、固定試験地を設定し、防除法についての試験・研究を昭和59年度から開始している。

病害については、①コステウム菌によるミカンの赤衣病(?)、②絹糸病、③ベスタロチャ病、④ムラサキモンパ病などがあげられている。

5. 今後の課題

わが国の銀杏の産地を市場別にみても、首都圏では埼玉県(主として秩父地方)が主産地であり、中京圏では愛知県と岐阜県(主として濃尾平野)が金兵衛・久寿・藤九郎などの優良品種による産地である。阪神市場では近郊にまとまった産地がなく、熊本・福岡・大分の3県が全入荷量の70~80%を占めている。福岡市場と北九州市場では地元の福岡県産が最も多く、熊本県産と大分県産がこれについでいる。

各市場別の年次別の価格は、年によって若干の高低

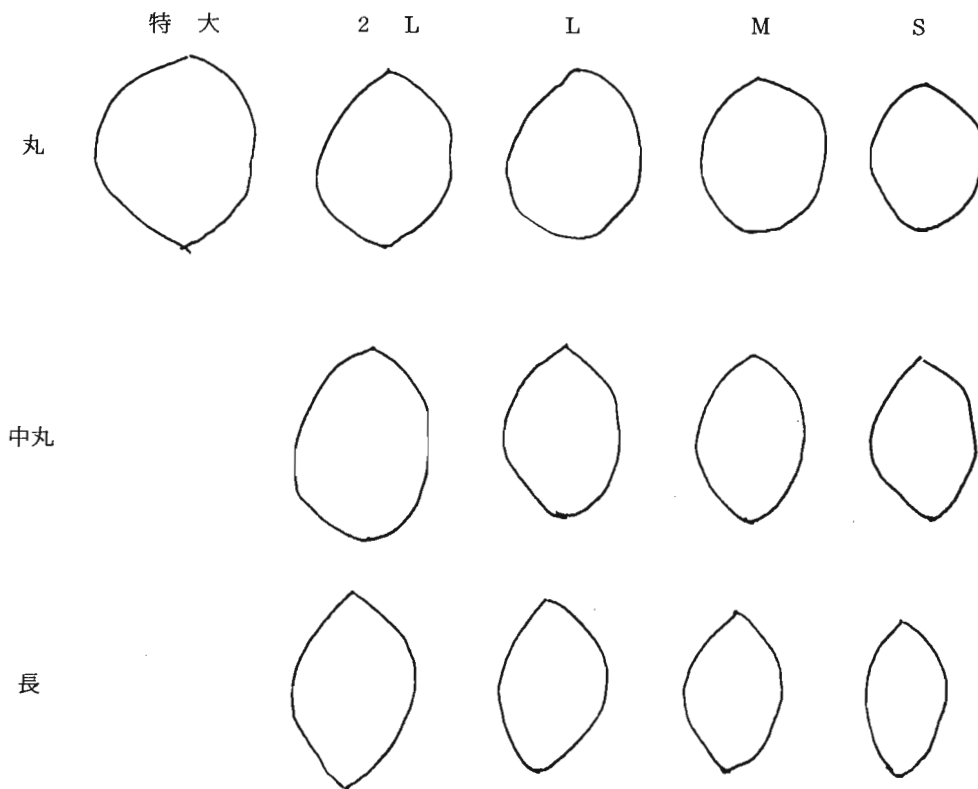
はあるが、年々高値となっており、銀杏の需要が増加しつつあるものように判断される。

現在の価格は、生産量の増加と中国・台湾・韓国等からの輸入によって、長期間維持することは困難であろう。ただし、優良品は、常に、その時点時点での最

高値で取引され、不良品は漸次駆逐されよう。

よって、銀杏の栽培は、主産地形成を目指して、優良品種の計画的集約的栽培を心がけ、市場価格を維持し、経済性の向上をはかるべく努力して欲しいものである。

(1) 選別基準 (実物大)



- 等級 丸・中丸・長の3等級とする。
 階級 特大・2L・L・M・Sの5等級とする
 調整 ①良く洗い、乾燥を十分に行うこと
 ②水に浮く軽い物は除去する
 ③病害虫果及びカビ果は除く

図-1 ぎんなん出荷規格表

表-2 品種の特性

品 種	熟 期	特 性
金兵衛	極早生	7月～8月 28mm×18mm×15mm 3.5g (平均) 果形は中で樹姿は直立
久 寿	早 生	8月～9月 24mm×20mm×15mm 5.0g (平均) 果形は大で開張性で豊産型
おたふく	中 生	果形は特大でやや開張で貯蔵性あり
長 瀬	晩 生	9月～10月上旬 3.0g 果形は小でやや開張性
藤九郎	晩 生	果形は特大でやや開張で(久寿よりやや小さい) 貯蔵性あり 9月下旬～10月
嶺 南	早中生	久寿の枝変わり
栄 信	早 生	金兵衛に似ている

表-3 大阪市場における県別入荷量と単価 (昭56)

県 別	入荷量 kg	比 率 %	単価 円/kg
埼 玉	15		1,400
千 葉	571	0.5	1,513
新 潟	2,773	2.2	1,310
富 山	1,275	1.0	637
石 川	459	0.4	868
福 井	11,299	9.0	1,009
長 野	180	0.1	595
岐 阜	1,671	1.3	1,551
愛 知	389	0.3	1,447
三 重	20		1,000
京 都	544	0.4	1,100
大 阪	2,176	1.7	613
兵 庫	3,787	3.0	907
奈 良	14		1,180
和 歌 山	161	0.1	694
鳥 取	109	0.1	1,239
島 根	1,504	1.2	965
岡 山	1,062	0.8	919
山 口	60	0.1	720
徳 島	121	0.1	543
愛 媛	243	0.2	830
福 岡	30,889	24.6	1,064
熊 本	31,602	25.2	1,302
大 分	34,566	27.5	1,225
合 計	125,490	100.0	1,157

表-4 福岡大同青果市場における県別入荷量と単価 (昭56)

	入荷量 kg	比 率 %	単 価 円/kg
福 岡	24,979	82.0	1,093
佐 賀	259	0.8	1,330
熊 本	3,786	12.0	1,312
大 分	1,496	5.0	1,408
鹿 児 島	22	0.1	1,590
全 国	18	0.1	1,374
台 湾	25	0.1	1,300
合 計	30,585	100.0	1,138

表-6 施肥設計 (成園)

肥料名	元 肥 (2～3月)	7月上旬 玉 肥	10月 下旬 礼 肥	
た い ひ	300 kg			5年目までは元肥を1俵 (組合化成88)
よ う り ん	50 kg			
配合肥料	50 kg			
組合化成 88		20 kg		
組合化成 88			20 kg	

表-7 病虫害防除

病虫害名	農 薬 名	備 考
ク ス サ ン	ディプレックス 粉剤 スミチオン	5月上旬, 9月散布 補殺 (手で取り除く) 10月末までに切り取り焼却する
天 牛	ダズバン(100倍) サッチュコートS	5月～6月中旬頃散布する
ナガタマムシ	スミチオン水和剤	5月中旬～6月上旬に散布する
コウモリガ	スミチオン水和剤10	6月～7月 散布
ピロウド カミキリ	ダズバン(100倍) サッチュコートS 50 トラサイド(500倍)	7月～9月 散布

